

寝屋川市 自然を学ぶ会 会報

No.91 2022.12.19
発行 寝屋川市自然を学ぶ会
会長 山田 晃
事務局 寝屋川市高宮1丁目7-9
千田正喜 宅
☎ 090-4036-0719



山装う 2022.11.22 みんなの掲示板 当尾の里散策

うたう

みずかみ かずよ

水仙は りんとしている
はりつめた寒気を
北風のするどい剣がきりさく

黄いろのしべは
ひなのくちばし
いっせいに大きくひらいて
のびやかにうたう
うたのなかから たちのぼる香気
なんとまばゆい一月

朝もやのなか 水仙は
まっすぐ背すじをのぼして
うたう

教室で読みたい詩 12 か月 水内喜久雄編著 民衆社刊

目次

- | | |
|---|--|
| (2) 行事報告 定例自然観察会 ⑤昆虫 ⑥どんぐり(深北緑地) | (8) 私の自然観察 昆虫(39)「キタテハ」 |
| (3) 行事報告 みんなの掲示板 ④シダの観察・打上川治水緑地散策 | (9) 自然はばらしい植物シリーズ(39)「シロバナタンポポ」 |
| (4) 行事報告 ⑤当尾の里の紅葉 ③野活環境整備 工作協力 | (10) 自然界の不思議 火山のふしぎ③ 火砕流 |
| (5) 協力・参加活動 出前授業、ふれあいフェスタ、
イチョウ祭・六中校区地域教育協議会、 | (11) 図書紹介 「となりのホンダギツネ」 ・ガイドブック調査 |
| (6) 自然資料室だより 子ども自然シリーズ講座 ⑧摂南大学講座
⑨葉っぱのアート⑩リース作り | (12) 行事予定 展示会、自然観察会⑦⑧、掲示板⑥
野外活動センター自然観察会と環境整備④
会報 PDF 版 編集後記 |
| (7) 自然資料室だより 大人自然シリーズ講座 ⑤木のブローチ
⑥竹工作 ⑦木の実 ⑧リース作り | |

バッタをとばそう

高本 憲二



虫取り

毎年恒例となった「昆虫かんさつ会」が深北緑地公園で開かれ、親子連れら37人が参加しました。お天気に恵まれ参加者たちは草むらや芝生で大人も子どもも虫取り網を持って夢中になって虫を追いかけていました。捕まえた虫は虫かごに入れてよく飛びそうなバッタを選んで、「バッタの運動会」に選手として出場させました。中には飛ぶ気のないものもいて記録1.5mというのもあったり、せっかく捕まえたバッタの飛んでいく後を追いかけていく子もいたりしました。今年はトノサマバッタが多くみなよく飛びました。最高記録はメスのトノサマバッタで計測不能50m超でした。

バッタの運動会の後は、トノサマバッタの耳はどこ？目はいくつ？など、トノサマバッタクイズでバッタの生態について少しだけお勉強しました。

最後に今回の記録の書かれた表彰状をもらって散会となりました。



飛んでくれ！ バッタ

親子でどんぐりウォッチング

木村 雅行



大きなどんぐり・・・

深北緑地でのどんぐりウォッチングはこれで8年目。心地よい秋晴れの下の観察会でした。今年も管理事務所前から出発してテニスコート・ドッグランの横を通り外周りの遊歩道を歩くコースです。猛暑が遅くまで続き、最近になってやっと涼しさを感じるようになったところです。緑地全体にまだ緑色が多く、樹々の葉が色づくのはもう少し先にお預けとなるようです。ただ、どんぐりや木の実の実は昨年同様にたくさん出来ており、観察しながらたくさん拾い集めることができました。

緑地にはシラカシとアラカシが特に多く、このよく似たどんぐりの違いをみんなで見比べました。生でも食べられるシイの実の実は今年はやや少なく、人気者のマテバシイの大きなどんぐりと円くて大きいクヌギのどんぐりはいつもよりたくさん拾えました。今年もみんなで「どんぐりの大きさをくらべ」の一番を競いました。木の実も赤色のクロガネモチ・ハナミズキ・サンシュユ、白色に弾けたナンキンハゼ、緑色のフウなども観察しました。

コースの最終地の深野池の近くのどんぐり工作の会場では子どもさんもお家族の皆さんも作品づくりを楽しんでいたように、うれしいです。今年は参加者が少なく少し寂しく感じますが、観察や工作が余裕をもってしていただけたように思います。毎年同じことの繰り返しですが、たくさんの子どもの笑顔をいただき、ありがとうございました



どんぐり工作

前葉体も見つかった！

天野 史郎

朝からの雨も集合時間のころにはあがり、16人の熱心なメンバーが河内森駅にあつまりました。天田神社へ移動する途中の田んぼで、早速ヒメミズワラビの群生が見られました。近年減少して



観察の様子

おり絶滅を心配されている植物です。ミズワラビは最近の研究で南方系と北方系に分けられ、本土のものは北方系の新種とされ、ヒメミズワラビの和名に変更されました。

道ばたにはホシダやシケシダ、ゲジゲジシダなど、おなじみのものができます。スギ林からの道ぞいは、下見のときに繁茂していたミゾシダやイノデなどが、すっかり刈り取られ大変残念でした。森林税を取るようになってから、山間部の草刈りが増えたように思います。もしそうなら税金を払い

たくないなと思ってしまうのでした。

高区配水池を過ぎたところでハンミョウが出むかえてくれました。気温が低いせいか動きはやや鈍いようでした。谷道の土手で前葉体を見ようとしましたが、イノシシに荒らされていて、なかなかよい場所がありませんでした。それでも皆さんは熱心に観察されていました。幸い雨には降られませんでした。この時期にしては肌寒い一日でした。



前葉体と孢子体

身近な公園の自然散歩を楽しもう

～自然がいっぱい～

中村 清秀

みんなの掲示板“特別編”として打上川治水緑地の秋を散策しました。

前日の雨も上がり、33名(内、子ども7名)が参加してくれました。

早速、集合場所近くの家アンテナにエゾビタキが出迎えてくれました。西の池の中州にはマガモやカルガモなどが羽ばたいており、遊歩道にはハクセキレイやヒドリガモの幼鳥も見られました。北の池にもコガモが。これからは冬鳥の季節を迎え、身近で野鳥が観察されるスポットとなります。



ガマの穂から綿毛が

スタッフがガマの茶色い所(花穂と言います)を手で砕くと、中からフワフワの綿毛がこれでもかと言わんばかりに溢れ出てきました。これには子どももビックリ、子どもが自然の不思議と出会い、目を輝かせた瞬間でした。スタッフの満足そう



羽を広げるカワウ

な顔がそこにはありました。

「郵便局の木」(タラヨウ)も教えてもらいました。羽を広げて日光浴をしているカワウもカメラにばっちり収めました。

この打上川治水緑地ができて26年、四季を通じて身近に自然が観察できるいい場所となりました。

紅葉の当尾の里へ

～岩船寺から浄瑠璃寺コースを歩く～

中村 清秀



浄瑠璃寺の本堂と紅葉

紅葉を愛でるバスツアー。今回は木津川市南部に位置する岩船寺から浄瑠璃寺の秋を巡って来ました。

観光協会で頂いたパンフレットを配布すると、参加者から“オー”と声。何と8年位前に「学ぶ会」で同地域を歩いた時の写真が掲載されていました。

岩船寺では本堂でお坊さんの話を聴き、特別公開された秘仏とも対面、境内を散策。本堂前の花手水が印象的でした。当尾の里が望める丘まで足を伸ばした参加者もいました。

岩船寺から浄瑠璃寺まで途中にある石仏や摩崖仏に手を合わせながらの自然観察。わらい仏の付近にはカラスウリの群生を発見。あの鳥はエナガです、この草はコンギクですと教え、教えられながら山を下り、浄瑠璃寺前の広場に到着、昼食。

浄瑠璃寺では見事に染まった紅葉が見られ。池に映えるイロハモミジや五重塔に満喫。山門前の隅っこにひっそりとセンリョウ、マンリョウが実を付けており、これまた風情を感じました。

帰る途中の精華町にある国会図書館前のメタセコイア並木もなかなかのものでした。

自然を活かし、自然とともに生きる当尾の里。美しい景色や、静けさ、厳肅さに心が洗われリフレッシュできた自然観察会でした。

サネカズラの実が！
(カラスの壺二尊横)

野外活動センターとの協働活動

第3回自然観察と環境整備

12月6日(火)

参加者20名



その上の木切って！

朝は冷えましたが、暖かくなり好天に恵まれて活動ができました。午前中は、オリエンタリングコースの点検整備及び植物の名札の点検、蛍広場への階段の掃除、蛍広場の北側の石垣の間に生えた木や草の除去、どんぐり拾い、昼食の調理に分かれて作業をしました。楽しい昼食は、おでんと豚汁に、頂いたレンゲ米をおいしくいただきました。

午後は、クロスジフユエダシャクの雌雄の生態を観察した後。水を抜いた寒谷池で動物の足跡の観察、森の広場にたくさん実っているフユイチゴの観察や試食をしました。思ったよりおいしかったです。

その後、リース作りの木の実拾いを兼ねて生駒山麓公園へ、残念ながら休園日で中へは入れませんでしたが、ヤシャブシの実など拾ってきました。



何の足跡かな？

◇野外活動センターでの協力活動 10月7日(金) 協力者4名

野活を利用する小中学生(10名)の団体に、竹の一輪ざしとぶんぶんごま作りで協力しました。竹を切るのが難しかったけれど、教えてもらいながらうまく切れるようになってきた子ども達。自分で作った一輪ざしに満足の様子でした。ぶんぶんごま(ベンハムのこま)は、まわすコツをつかむようになると、きれいに回り、白と黒の線なのに、赤や緑などの色が現れ驚き、楽しんで回していました。



竹を切るの難しい

協力・参加活動

この秋も、小学校や地域団体などと協力活動を進めました。多くの会員の皆さんにご協力いただきました。

□ 出前授業(小学校1・2年生 生活科) 10月～11月



秋になると!

今年が初めての香里ヌヴェール学院と市立小学校(北小、宇谷小、成美小、楠根小)に出かけ、334名の子どもたちから元気をもらいました。今年もコロナの関係でクラスごとに分かれて、紅葉やどんぐりなど秋の話をした後、どんぐりペンダント・どんぐりこまとやじろべえ・トトロの置物を作りました。どんぐりこまは休み時間に一緒に楽しく遊び、トトロの置物では何回も並んで木の実や枝などをつけるたびに子どもたちの笑顔に出会えました。最後に子どもたちから「楽しかった。また来てね」等の感想があり、いつまでも見送ってくれました。

□ 市民ふれあいフェスタ

10月2日(日) 協力者4名

市民会館の登録団体の活動発表です。今年いつもの「パネル展示・舞台」に加えて、希望した9団体の「ネット動画」の上映そして参加者の「メタバース体験」などが加わり、新しい時代に対応した「ふれあい」活動の広がりです。来年が楽しみです。

本会は例年どおり「パネル展示」で、本会の活動紹介と工作コーナー(どんぐりペンダント、木のペンダント)です。絶えることなく多くの方々に見学と工作づくりにおいでいただきました。



できましたよペンダント

□ イチョウ祭

11月27日(日) 協力者5名



水車もありました

淀川点野の茨田樋遺跡水辺公園でイチョウ祭が開催されました。今年もコロナ禍ということで、午後からの開催です。

地域団体のパネル展示やステージでのスピーチ、防災についての紙芝居、そして例年どおり幹線水路での船乗り体験もありました。本会からは、どんぐりペンダントとやじろべえ作りなどで参加しました。天気も良く、皆さんと楽しく交流できました。

□ 六中校区 国松緑丘小、第五小のどんぐり教室 12月3日(土) 協力者7名

6種類の工作にチャレンジして楽しみました

六中校区地域教育協議会主催で、今年国松緑丘小学校体育館で9時30分スタートです。53名の小学生が8グループに分かれて、はじめはどんぐりペンダント作りで、次にどんぐりなどの木の実や木の枝・葉などの自然物を組み合わせての工作です。子どもたちはイメージをふくらませて少しずつでき上がるのを楽しんでいます。その後、選択の4種類(やじろべえ、ぶんぶんごま、竹こま、風車)の工作です。作りたい工作の場所へ移動し、順次作りました。作り方は、子どもたちと地域、本会の協力者とのキャッチボールです。2時間に6種類の工作を楽しみました。子どもたちの楽しんでいる様子は地域の人の喜びです。そんなどんぐり教室でした。



楽しいどんぐり工作

みんなでつくる自然資料室だより

□子ども自然シリーズ講座

⑧摂南大プログラム「コケリウム作り」

9月17日(土)

参加者 43名(内子ども 15名)

摂南大の学生7名が、自分たちで考え材料や資料も用意するという独自の内容です。はじめに、コケのクイズで子どもたちの興味を引きだし、コケについての話があり、コケリウムを作ることになります。用意されたビンに専用の土を入れ、湿らした上にコケを敷き詰めます。そこに小石を配置し整えていきました。その後、コケリウムを



ビンにコケを入れます

置く板を飾っていきます。グルーガンを使って木の実や枝、貝殻などで木に飾りをつけていきました。コケリウムを完成させた後、原材料クイズがあり、紙、ガラス、チョーク、鉛筆の芯は何からできているのかを考えました。

子どもたちから「コケリウムが楽しかった」「コケリウムを作ることとクイズ、周りにグルーガンで飾ったこと、全部が楽しかった」という感想がありました



コケリウム 完成

⑨葉っぱのアート

10月8日(土)

参加者 19名(内子ども 8名)

はじめに講師の杉本さんから木の葉についての話があり、その後敷地内にある樹木の葉を、話を聞きながら採集しました。サクラ、ケヤキ、ナンテン、キンモクセイ等の葉を取りました。学習室に帰り紙の下に取ってきた葉を置いて、クーピーや墨を使ってこすり出しの練習をしました。少しの力の入れ方で色の出具合等が違います。仕上げの紙をもらってからは、木の葉や色を変えたりしてこすり出し、葉脈の美しさを楽しんでいました。

子どもたちから「絵具を使ってすると思っていたのが、クーピーなどでこすりつけてしたのでおどろいた」



線がうまく出るかな？

「葉の勉強しながらできて、楽しかった」という感想がありました。

⑩リース作り

12月10日(土)

参加者 33名(内子ども 13名)

淀川で取ってきたクズと出先で拾ってきた約20種類もの木の実や葉、そして紙や布などで作られた飾り付けが学習室の周りに並べられています。はじめに、クズの輪を選んだ子どもたちは、リースとクズの話の聞き、グルーガン等の道具の使い方の注意を聞いて材料を付けていきました。今日は、摂南大の学生さんもスタッフと共に子どもたちのお手伝い。材料を選ぶのに考え、付ける場所も考えてうれしそうに



どこに付ける？

グルーガンで取り付けていきました。

子どもたちから「つけるのも、選ぶのも楽しかった」「見た目はかんたんそうにみえて意外と難しい事が分かりました。楽しかったです」などたくさん楽しかった感想がありました。

□大人自然シリーズ講座

⑤木のブローチ「チョウ」

9月29日(木) 参加者30名

8年目になる人気のイベントの一つです。はじめに「チョウとガの違い」の話があり、ブローチ作りに取りかかりました。「手を刃物の前に絶対に置かないこと」と強い注意を受けた後、カッターナイフでチョウ型の木を削っていきます。周りのスタッフや講師の森本さんの的確なアドバイスでチョウの型になっていきます。その後、ペーパーできれいに磨き、色を付けます。



きれいに塗れるかな！

思い思いのチョウの出来上がりです。

数名の方は、さっそく胸に付けて帰られました。

⑥竹工作「干支・卯」

10月24日(月) 参加者28名

講師の高本さんが考えられたオリジナルな作品です。1本の竹をノコギリで胴、頭、しっぽ、白に切り分けま
す。斜めに切ったり、途中まで真っ直ぐに切ったりと皆さん四苦八苦。周りのスタッフに手伝ってもらいながら、すべてのパーツがそろいます。パーツをつなげるため細く切った竹串を埋めて、木工ボンドで接続します。耳や目の位置が少し変わるだけで、雰囲気は違います。感想に「組立が難しかった」「竹串が細いので、折れやすかった」などがありました。



きれいに切れるかな！

⑦木の実と紅葉「寝屋川公園」

11月28日(月) 参加者18名

来年度行う予定の自然塾を想定して、1日の講座です。午前は寝屋川公園の会議室で、講師の杉本さんから木、林、森についての話がありました。木と人との関係や木の実と紅葉についての話で、知っていることなになぜか新しい知識が入ってきたようでした。幹の道管の実験も楽しかったです。午後からは公園内を散策しました。木の実や紅葉のようすを詳しくその場でしか聞けない内容が盛りだくさん。会議室に帰ってから今見てきた木の実などの同定を行い再確認しました。天気も良く、受講生の皆さんは、1日のイベントに満足されていました。



公園の樹木観察

⑧リース作り

12月12日(月) 参加者45名

毎年申込者が多く、キャンセル待ちや別の日にも作りに来られるということで、午前と午後の2部で受け付けました。最初に秋の七草でもある「クズ」の話です。実際のクズを観たり、資料をもとに話された後、注意事項を聞いて、待ちに待った飾り付けです。自然物の多さと個数限定品の多さに驚きながらも、熱心に取り付けていきます。同じテーブルの方に相談しながら、少しずつ形ができて上がってきます。子どもたちと違って自然の木の葉や木の実を多くつけられていました。最後に、リボンを付けて完成



この木の実は！

私の自然観察

身近な昆虫 39.

—キタテハ—

高本 憲二

先日、散髪の帰りに、線路わきのフェンスに絡みついたカナムグラの中にトゲトゲのイモムシを見つけた。カナムグラの茎のトゲトゲにも負けないくらいのトゲの持ち主です。これはクワ科のカナムグラを食草とするキタテハの幼虫です。触ると刺さりそうな恐ろしい見た目ですが、このトゲは単なる見かけだおしで、実際には刺さりませんし毒もありません。普段、この幼虫はカナムグラの葉を折りたたんで巣を作りその中に隠れていて、お腹がすいたときに外に出て近くにある葉を食べます。成長するとこの巣の中でサナギになります（近くの枝でサナギになることもある）。今の時期（12月）に巣をのぞいてみるときっとサナギが見つかるでしょう。サナギは1週間ほどで羽化して成虫になります。



11月の深北緑地でのドングリウオッチングのときに黄色いセイタカアワダチソウの花の上で翅を広げているキタテハがいました（↓の写真）。寒くなるとほかのチョウの姿がだんだんと見られなくなっている時期でも活発に動き回っています。

キタテハの越冬形態は成虫です。寒さの厳しいときは葉陰で休んでいます、太陽が出て暖かい日には飛んでいる姿を見かけることもあります。

下の写真でははっきり見えませんが、タテハチョウの仲間が歩くのに使っているのは4本の足で、見た目は4本足ようですが、実際にはほかの昆虫と同じように6本足です。前の2本の足は普段は身体に沿わせてかくれていて、食べ物の味などを確かめるときに使われます。

右の写真は翅の表面で、下の写真は翅の裏面です。タテハチョウの仲間ではこのように翅の表と裏の模様の違うものが多くみられます。



裏の翅の模様にくの字型の白い斑紋が見えますが（左の写真）、学名の *C-aureum*（白いCの…）はこの模様になんでつけられたそうです。

冬の寒さがだんだんと緩んできて、オオイヌノフグリの花が咲き誇り木陰で休眠していたキタテハが飛び回る季節が来るのが待ち遠しい今日この頃です。

キタテハ（黄立羽）：*Polygonia c-aureum* チョウ目 タテハチョウ科 成虫越冬

自然はすばらしい 植物シリーズ 39. シロバナタンポポ 花期 3~4 月 白と黄のせめぎあい

本多 政雄

キク科、タンポポ属、(Taraxacum) (タラクサクム)

京以西の本州、四国、九州に分布。西日本に行くほど多く、四国、九州には黄色の自生タンポポが分布せず、これだけという地域もある。黄色のタンポポより葉や総苞の色がうすい。花期は3~4月。受粉なしに種子をつくる単為生殖をする。

春の淀川自然観察で枚方・磯島地域へ行くと、毎年枚方地域のビオトープ跡でシロバナタンポポが十数株集まって咲いている所があります。このタンポポは黄色のタンポポの白花ではなく、シロバナタンポポという別種のタンポポです。

私の住んでいる枚方市牧野町でも近くを流れる穂谷川の堤防で分散していますが5~6株見られるところがあります。ちょっと気になったので調べてみました。



頭花



果実

淀川に縁のある俳人と謝蕪村作『夜半楽』(1777年安永6年)の中の詩「春風馬堤曲」に次の一節があります。

・・・「たんぽぽの花咲けり／三々五々／五々は黄に／三々は白し」・・・

これは藪入りで帰郷する少女に仮託(かたく=物語の主人公にして)して毛馬堤の春景色を叙した叙情豊かな郷愁の詩です。毛馬堤は大阪市郊外の毛馬(けま)の堤で、蕪村が幼年時代に育ったところです。タンポポはそこに向かう道端に生えていたのです。黄対白が5対3です。そんなにシロバナタンポポが生えていた

のでしょうか。今の大阪の状況から考えると、それほど白はないと思います。当時蕪村が住んでいた京都でも同じでしょう。あえて5対3と記したのは、それが蕪村の毛馬の印象に残る光景だったからではないでしょうか。

ところで不思議に思うのは、教科書や絵本のタンポポはなぜか全て黄花です。四国や九州では黄花のタンポポは自生せず、シロバナタンポポしか生えないところがあります。

たぶんこれは小国日本が明治以来、中央集権で近代化を急速に進める中で、新しい文化の発祥地は東京や関東という思想が高まり、当然と考えられるようになったからでしょう。しかし、日本は陸地は小さいが亜寒帯から亜熱帯まで広がった環境をもった国です。このような環境をもつ国は世界に数カ国しかありません。実際に日本列島に生育する植物の種類数はヨーロッパ大陸全体に匹敵します。面積は狭いが、植生の変化と種の多様性という点では日本は「大国」なのです。

植物学にもどって、タンポポ属は大きなグループで、世界に約400種あり、とくに北半球に多く分布しています。日本には約20種が自生しています。

頭花が両性の舌状花だけからなり、舌状花の先に5歯(小さな裂)あること、茎や葉に乳管があるので、切ると白い乳液がでる、葉はすべて根生し、ロゼット状になる。葉腋から花茎をのばし、先端に頭花を1個つける。花茎は分枝せず、葉もつかないのが特徴です。頭花は日が当たると開き、くもったり、暗くなると閉じます。そう果の先端はくちばし状に長くのび、その先に羽毛状の冠毛が付きまします。そう果が熟すと冠毛が開き、風に乗って飛散します。

自然界のふしぎ

自然界の不思議やその仕組みに迫るために前回の「ダーウィンと化石1～4」に続いて、今年度は「火山のふしぎ」をお届けします。

火山のふしぎ ③ 火砕流(かさいりゅう)

西村 寿雄

今回は、火山噴火で恐れられている「火砕流(かさいりゅう)」について少し書いてみましょう。

「火砕流(かさいりゅう)」という言葉は以前から学者の間では語られていましたが、一般に普及したのは1991年に起きた雲仙普賢岳の事故からです。1991年6月3日、雲仙普賢岳で大きな火砕流(かさいりゅう)が発生し、火山学者を初め報道関係者、消防団員など43名が犠牲になられたことはまだみなさんの記憶に残っていることと思います。

では、「火砕流(かさいりゅう)」とは何でしょう。なぜそんなに多くの犠牲者を出したのでしょうか。

「火砕流(かさいりゅう)」は、火山噴出物の混合体みたいなもので、600度を超える熱い固体と気体が交じり合って時速約100kmの速さで一気に流れ下る降下物です。写真の白い所は火山ガス、もくもくと巻き上がる黒い所は岩片や軽石、火山灰などの混合体でしょう。

とにかく、高温で高速なのであつと言う間に付近にいる人々や建物を飲み込み焼き尽くしてしまいます。恐ろしい〈粉体流(ふんたいりゅう)〉です。

「火砕流(かさいりゅう)」による被害は過去にもしばしばありました。

平安時代の浅間山噴火については

「この噴煙は、軽い軽石と火山灰がたっぷりまじった濃い噴煙だった。空気より重くて空に浮かび上がれない噴煙は、地面に沿ってひろがって、時速100kmのはやさでしずかに山をくだってきた・・・」(はぎわらふぐ作『火山はめざめる』)

江戸時代、1783年に始まった噴火では被害の大きかったのは鎌原村です。流れ下った火砕流(かさいりゅう)で「逃げ遅れた村人477人が生き埋めになった」(伊藤和明)

とあります。また外国でこんな記録があります。紀元79年イタリアのポンペイという町(長年埋もれていて18世紀になって発掘された)では

「残った住民はその後起きた火砕流(かさいりゅう)にのまれて死亡し街は壊滅した」(朝日9/13)とあります。いずれにしろ、火山噴火では溶岩以上に恐ろしいのが火砕流(かさいりゅう)です。

次は、水蒸気爆発について書いてみましょう。水蒸気が爆発??とは何でしょう。



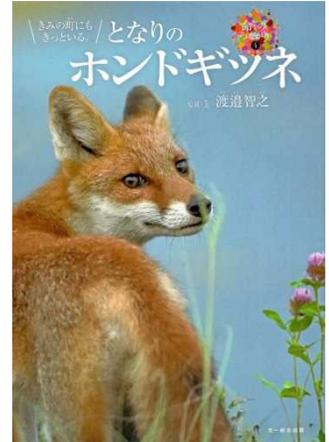
図書紹介

～こんな本が出たよ～

『となりのホンドギツネ』

渡邊智之/写真・文 文一総合出版

ホンドギツネは山奥に棲む動物かと思われるが、あんがい都会の公園や川の堤防などに棲んでいる。寝屋川でもしばしば見かける。ホンドギツネは尾が太くて長い、ぴんと立った耳、長い顔、白い胸毛などで犬とは区別がつく。



この本は、そのように身近に棲んでいるホンドギツネの生活ぶりを写真で紹介している。見開きページでまず出てくるのは、ガードレールのある道路沿いの崖の下でホンドギツネが歩いている姿。次は広い河川敷。満開の菜の花畑の間に注目すると・・・キツネの子どもが遊んでいる。花畑のすぐ横に巣穴が見える。その前に親ギツネに群がる子ギツネの写真も出る。巣穴があるということは、そこでキツネが生活している証拠でたまたま流れ着いたのではない。土手があれば巣穴を作る。ちょっと大きめのキツネの親子がじゃれつく写真が出る。もう近くに棲み着いている証拠である。

次々と身近な場所に棲んでいるキツネの写真が紹介される。ブランコの横を餌を求めて歩いているキツネ、車の行きかう道路下の崖でじっと座っているキツネなどが出る。ここで「ホンドギツネは人前に姿を見せることはめったにありません。おくびょうな動物だからです。」とある。なのに、なぜ、キツネは人間の近くで暮らしているのだろうか。

次に、キツネが近所の畑に出かけている写真が出る。畑にはキツネのエサとなる小動物も多い。人間の住むそばには食べ物が多い。さらに河川敷には、キツネの子どもが遊ぶのに都合の良いペットボトルや新聞紙、ボールなどが転がっている。河川敷はキツネには格好の遊び場でもある。ある日、キツネの棲み家である雑草が刈り取られていく。夜中に道路に飛び出して車の波にすくむこともある。それでもキツネは「人間の近くをはなれようとはしません。」とある。街近くでしたたかに生きるキツネ親子の写真が続く。

最後に少しばかりの解説があるので参考になる。

2022年6月 1,800円

<西村 寿雄>



身近な自然ガイドブック「秋の淀川」

2023年3月発行に向けて進んでいます!!

昨年度から調査編集にかかっていた身近な自然ガイドブックの第8編「秋の淀川」も今年度の調査活動を終えて、まず本編のレイアウトが出来て校正にかかっています。

2023年1月には、印刷にまわします。2月には資料編も併せて校正にかかります。

2023年3月完成が楽しみです。

行事予定



ウラナミシジミ

□定例自然観察会⑦

「冬鳥の観察」

～打上川治水緑地とその周辺～

◇日時：2023年1月15日(日)

9:30～12:00 雨天中止

◇集合：打上川治水緑地 西北口

午前9時30分集合

◇持ち物：双眼鏡、ガイドブック他

◇案内：中井新一さん、中村清秀さん

この行事は、寝屋川市環境総務課と共催で実施します。

*下見：1月10日(火)日程は当日と同じ

□みんなの掲示板⑥

「淀川の冬鳥」

～淀川河川公園・枚方地区～

◇日時：2023年2月11日(土・祝)

9:30～12:00 雨天中止

◇集合：淀川資料館裏河川敷駐車場

京阪枚方市駅から徒歩15分

午前9時30分集合

◇持ち物：双眼鏡、ガイドブック他

◇案内：本多政雄さん



カタクリ

□定例自然観察会⑧ 春の野草・樹木 「私市植物園」

◇日時：2023年3月21日(火・祝)

9:30～12:00 雨天中止

(午後は自由見学)

◇集合：私市植物園 9時30分

◇持ち物：水筒、筆記用具、(弁当)

◇入園料 350円

(中学生以下無料・府内在住 65歳以上 150円)

駐車料 500円

展示会「私の自然観察」

◇日程：2023年1月27日(金)～30日(月)

◇会場：アルカスホール 1階ギャラリー

◇展示内容

①本会の今年1年間の活動記録

②会員のみなさんの「私の自然観察」

③関係機関・団体の活動紹介ほか

(参加者の交流コーナーも予定しています。)

◇展示作品の募集

身近な生活や旅行等で撮られた「自然」に関わる写真などをお寄せください。内容・形式については自由です。

*展示作品の受付等、詳しくは別紙連絡資料をご覧ください。

□野外活動センターの自然観察と環境整備④

◇日時：2023年2月7日(火)10:00～14:00

◇持ち物：帽子、雨具、水筒など、軽装で

◇内容：センター内の自然観察と環境整備

◇昼食：お楽しみ昼食

◇参加申込：1月31日(火)までに

千田(090-4036-0719)・東森(090-5645-1531)へ

【お知らせ】会報カラー版について

会報 90号から、全頁カラー版(PDFファイル)を寝屋川市自然を学ぶ会のホームページ(HP)にアップしています。興味のある方は、覗いてみてください。スマホ、パソコンで「寝屋川市自然を学ぶ会」で検索し、

(<http://www.cc-net.or.jp/~ja3ach/3shizen/3-3manabukai.htm>)

行事記録/2022年度/会報カラー版をクリックして下さい。

編集後記

コロナ禍が続く中でしたが、皆様のご協力のおかげで報告の通り秋の行事は予定通り進みました。

1月には締めくくりの展示会もあります。ガイドブック「秋の淀川」も印刷にかかります。

皆様のご参加、ご協力よろしく申し上げます。